

大学等名	富山大学高岡短期大学部
テーマ名	テーマ1：地域活性化への貢献（地元密着型）
取組名称	非言語と言語の融合による地域国際化教育 - 世界に開かれた高岡まちづくり -
取組学部等	全学
取組担当者	渡邊康洋
取組期間	平成17年度～平成18年度
Webサイト	http://gmap.tad.u-toyama.ac.jp/report/index.html

取組の概要

「グローバル観光戦略」（H14国交省）は、地域社会も国際化・外客誘致に向けて具体的に行動することを求めている。本学はこれまで地元高岡市と密着した教育を行ってきたが、本取組は、関連授業に地域組織・住民の参加を求め、世界に開かれた教材を導入することにより、この新たな地域ニーズに応えるものである。具体的には、これまで別学科、別区分で実施されてきた授業群を「国際化」という共通テーマで結んだ融合教育で実施し学生の国際感覚を育む。特に授業では地域に埋もれた文化資源を発掘した後、在住外国人や市担当部署との共同作業により、地域情報の国際的発信を可能にする。さらに地元ボランティアガイドの指導の下で、英語・中国語による観光資源の紹介体験をすることにより言語・非言語総合的コミュニケーション能力を育成する。こうした本取組は、高岡市を真に世界に開かれた都市へと発展させ、また国際的人材養成により地域国際化に貢献することを目標としている。

実施の経緯・過程

1. 取組の実施状況

本取組は、地域社会及びグリーンマップに関する基本的理解（1年次後期）、地域の観光資源・生活資源の発掘・認識に関する意義の理解、及びその手法の習得、（2年次前期）、非言語（デザイン）と言語（英語と中国語）による地域資源の発信手法の習得（2年次後期）の3段階からなる。これらを構成する授業を受講することによって、学生は地域資源を認識・発信する能力と国際感覚を持つことができ、またその成果物は直接的に地域の国際化に貢献することができた。

2. 教育課程・教育方法の工夫

上記3段階の教育は、それぞれ関連する既存の授業の中に、本取組の主旨を取り込み発展させた形で実施された。また、学生にとって、基礎から専門への段階的な理解・習得が可能になるために、1年次には、全学年必修の基礎科目を割り当て、2年次前期は、基礎教育選択科目、後期は専門選択科目を割り当てた。また、各科目とも、地域資源の発信に携わる学外の専門家を講師に迎え、授業により実践的な要素を織り込んだ。（学外専門家については、項目4を参照。）

3. 実施体制

本取組の運営担当者は下記5部門に配属され、取組を遂行した。

該当授業担当：授業企画担当者（8名）、授業実施担当者（8名）、授業の中に、本取組の主旨をどのように取り込むか企画し、授業を運営して行く。

特別講演会「高岡グリーンマップを作る」運営担当（2名）、本取組の最初のイベントとなる特別講演会を企画・運営し、学内だけでなく、地域社会に本取組に対する理解を求める。

特別講演会報告書編集担当（1名）、講演会の記録を作成、配布してグリーンマップについて、高岡グリーンマップを作成することの意義、および本学の取組に対する理解を広く求める。

サーバーシステム導入担当（1名）、取組の進行状況を発信するGPサイトを置き、また学生の地域資源調査データを格納、参照するためのサーバーシステムを構築する。

評価担当（中間・最終）（2名）、取組の実施状況や成果を評価する。

（事務局）

4. 年度毎の実施内容

平成 17 年後期

10月25日 該当授業「地域産業史」学生オリエンテーションの実施

1月17日 該当授業「地域産業史」にて特別講演会「高岡グリーンマップを作る」

・参加外部講師：グリーンマップ代表、W・ブラウアー氏、グリーンマップジャパン代表、右衛門佐美佐子氏、同理事、北條崇氏、

3月3日 「特色・現代3GP採択記念フォーラム」の実施

3月4日 文科省「現代GPフォーラム」ポスターセッションに参加

3月8日～28日 グリーンマップ制作地域の視察調査

・西宮、世田谷、横浜、広島の各グリーンマップ

3月 サーバシステムの導入

3月 特別講演会「高岡グリーンマップを作る」報告書の発行

平成 18 年前期

4月17日～7月31日 該当授業「まちづくり」の実施

4月12日～5月19日 該当授業「C Iデザイン」「製品デザイン」の実施

4月12日～7月25日 該当授業「グラフィックデザイン論」の実施

・参加外部講師：まちづくり活動実践家、清水千鶴子氏、「高岡誕生の物語古城万華鏡」著者、山本和代子氏、高岡市国際交流員、D・シンプソン氏、市内ALT、S・レイ氏、200X年まちづくりの会代表、本田恭子氏、同事務局長、野沢昌弘氏、グリーンマップジャパン、田中裕子氏、デザイナー、T・ペリー氏

6月13日 前期・中間評価会の開催

7月24日～8月3日 前期該当授業の成果をパネル展示

8月13日 前期・最終評価会の開催

平成 18 年後期

10月2日～1月31日 該当授業「総合デザイン実習」の実施

10月3日～11月14日 該当授業「国際コミュニケーション（英語）」の実施

10月3日～11月14日 該当授業「国際コミュニケーション（中国語）」の実施

・参加外部講師：高岡市国際交流員、E・ヘニング氏、市内在住英語講師、R・カーティス氏、在住中国人、符麗紅氏、高岡市観光ボランティア、加須栄教子氏、同清水静子氏。

12月16日～1月16日 現代GP壁新聞による「高岡グリーンマップ」学内広報

3月20日 後期・最終報告会の開催

3月31日～ 高岡グリーンマップの高岡市への寄贈

目的に対する成果、人材養成面での達成度

1. 目標やテーマごとの政策課題に対する達成度

地域社会及びグリーンマップに関する基本的理解：1年次必修科目において開催された、特別講演会「高岡グリーンマップを作る」において、海外からの講師を含むグリーンマップ専門家などから地域の資源を知ることの重要性に関する講演を受け、受講学生は地域社会やグリーンマップに関する基本的な理解をすることができた。目標を充分達成することができたと考える。

地域の観光資源・生活資源の発掘・認識に関する意義の理解及びその手法の習得：地域社会に関して基本的な理解をした上でフィールドワークなどを含む地域の資源の発掘作業を行い学習効果を高めることができた。また、多くの学外講師の講演を聴く機会を得て幅広い観点からの理解ができた。この目標については概ね達成することができた。

非言語（デザイン）と言語（英語と中国語）による地域資源の発信手法の習得：非言語を用いた地域資源の発信では、アイコンを使ったグリーンマップの制作を目指した。この作業では、高度な技術と専門性が要求され学生だけの力量ではマップの完成は困難で、結果的に教員などの作業援助が求め

られた。しかし、高岡固有の資源を表すローカルアイコンの制作・デザイン作業においては、再度、資源の場に赴くなどし、学生は実践的な制作作業を体験することができた。これらの反省から、この分野においては、目標を達成するためにさらなる努力が必要であったと考えられる。また、英語、中国語を用いた資源の発信作業については、学外から観光ボランティアや外国語ネイティブスピーカーの指導を得て、学生は、極めて現実の姿に近い環境で資源の説明・案内を体験し、異文化コミュニケーションの実際を体感する貴重な経験を得た。したがってこの目標を充分達成することができた。

成果物が地域の国際化に貢献：高岡グリーンマップは、米国ニューヨークのグリーンマップ本部に登録され、世界のグリーンマップ都市のひとつとして掲載された。また本取組では、紹介インターネットサイトを英語でも作成しており、英語による検索にも対応し高岡グリーンマップの閲覧が可能となっている。マップは日本語で作成されているが、グリーンマップは世界共通アイコンを使って表現されているため、非言語による国際的資源発信が行われている。また、デザインによる資源の表現、あるいは外国語による資源の説明を体験し学んだ学生は、将来、地域の資源に関する発信の場において、これらの経験を基に地域に積極的に貢献することが期待されるため、概ねこの目標を達成することができたと考えられる。

2. 就職への影響等

就職活動が1年次後期からすでに始まり、2年次前期には大方の就職進路が決定する短期大学においては、この取組が直接学生の就職に与える影響は限定的であるといわざるを得ない。しかし、本短期大学部ではとりわけ観光関連業界への就職をする学生が多いため、就職後、職場で本取組により身に付けた能力が発揮される可能性は極めて高いと予想できる。

自大学の教育改革への影響、他大学等への波及効果、地域社会等への波及効果

1. 自大学の教育改革への影響：本GPの選定に先立って、本学では、H16度特色GP「学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト」及び、H16現代GP「『炉辺談義』方式による地場産業活性化授業」の選定を受けている。これらの取組の学内外での活動や成果と、本GP「非言語と言語の融合による地域国際化教育」により、富山大学としてH19年度現代GP「出会い・試し・気づき・つなぐ芸術文化教育」の選定を受けた。

2. 他大学への波及効果：H18年1月に開催した特別講演会「高岡グリーンマップを作る」について、芸術関連の大学より問い合わせ、資料請求を受けた他、3月の現代GPポスターセッションでは、本GPのシンボルともいえるグリーンマップ作りを授業の中で学生が行う計画が注目を集め、この手法は参考になる等の多くの関心が寄せられた。また本学が3つのGPの選定を受けたことへの賞賛や励ましの声を受けた。

3. 地域社会への波及効果：本取組は計画時から、地域社会との連携を保ちながら進める予定であったが、特に、特別講演会「高岡グリーンマップを作る」のメディア報道後は、多くの関心が寄せられ、まちづくり関連団体から取組に対する協力の申し出を受けた。また、多くの地域団体等から講師の派遣を受けたことは、それが本取組についてそれら地域団体にフィードバックする形となり、GPを通じた本学の地域貢献に対する理解が深まった。

学生等の評価

1. 学生アンケートより（主な回答）

地域資源の発掘関連：町中調査をして新たな発見があった。地域の人とコミュニケーションができた。学科混成グループ共同作業は効果的だった。高岡のまちづくりに対する関心が深まった。

資源のデザインでの発信関連：高岡市やその資源に対する関心が深まった。自分の身の回りをよく観察し、問題意識をもってみるようになった。外にでたらアイデアが多く浮かんだ。コンセプトがしっかりしていないと製品にうまくつながらないと思った。

外国語での地域資源の発信関連：日本について外国人に知ってもらうために英語を身に付ける必要があることを学んだ。異なる文化の人に日本のことを伝える際に気をつけるべき点を学ぶことができ

た。原稿作りや下準備の大切さを実感した。相手の文化にない事柄を説明する際にはわかりやすく工夫する必要があることを学んだ。

2．外部講師（関係者）からの評価

グリーンマップを題材として取り上げることが町を知る入り口となる。グリーンマップ制作は、まちづくり過程の一つで、次のステップへつながるものと期待される。（学生の町中調査後の）発表は全体に取材報告に終始しているので、学生の考えや議論・具体例が欲しい。

学外からの評価

1．地域社会、自治体、関係団体等からの評価

・グリーンマップは地域に住む人や産業をも対象とすることがわかり思いを新たにした。資源発掘調査をした学生たちのプレゼンテーションに感心したが、これからは学生には既成概念にとらわれずいろいろな提案をしてほしい。（自治体）

・高岡の観光はこれから国際化してゆくが、現在ボランティアガイドでも外国語の案内ができるものはほとんどいない。この取組を通じて、学生たちが将来そのような形で地域の国際観光促進に貢献してもらえるようになることを期待する。（観光ボランティアガイド組織）

・マップ制作授業を通して学生たちが少しでも高岡を深く知り愛着を感じるようになって欲しい。また、市民側で企画しているまちづくりにも参画してもらい、情報交換をしていきたい。（まちづくりNPO 団体）

・グリーンマップ制作で得られた情報は高岡のあらゆる資源に渡っているので、そのデータを高岡市の情報発信ウェブサイトを提供して欲しい。（市の公式サイトを運営する IT 企業）

2．報道の反応等

本取組の活動は、数多くの報道に取り上げられた。

・報道された活動：高岡版グリーンマップづくりの始動、特別講演会「高岡グリーンマップを作る」、外国語で高岡大仏案内、高岡グリーンマップ完成・ニューヨーク本部に登録、グリーンマップ印刷完成、高岡市に寄贈。

・メディア：朝日新聞、読売新聞、北陸中日新聞、北日本新聞、富山新聞、富山テレビ、KNB 北日本放送、チューリップテレビ、ケーブルテレビ高岡。

取組支援期間終了後の展開

・完成した高岡グリーンマップは、早い時期から地域資源に対する関心をもってもらいたいという願いから小学生の利用に配慮した内容となっている。そこで H19 年 6 月から 7 月にかけてマップが対象としている地域にある小学校に、地域学習の教材としてグリーンマップを配布したところ、当初小学年のみを対象としたが、中学年にも使用したいとして追加配布の要望を受けている。

・本取組で実践された地域資源調査、外国語での資源発信などは、四年制となった新学部の授業で採用され成果をあげている。

・本取組の報告ホームページは全項目を英語でも公開するべく作業中で、期間終了後も本取組を通じて高岡市の国際的発信を行ってゆく。

本件お問合せ先 富山大学学務部芸術文化系学務課

T E L (0766)25-9128

F A X (0766)25-9126

E-mail tkyommu1@adm.toyama-u.ac.jp